

【ねがいましては】

第84号

平成8年4月25日

共和珠算学習塾

「自分だけはの裏側」

この4月から、フジTV系で「みにくいあひるの子」というドラマが始まりました。先生役の岸谷五朗さん以下、子どもたちの好演が光ります。普段からお母さんやお父さん、そして私がもやもやと抱えている「これでいいのだろうか?」という部分を前面に出しながら、終盤、「そう、そうなんだよね」と思わせる結末をむかえる内容であったと思いました。

心に訴えかけてくるものは、やはり子どもの持つ「やさしさ」です。私たち大人が子どもから学ばせていただく「光るもの」を感じさせていただきました。K君が田舎の学校から都会の学校へ転校していじめに遭いながらも、同じ田舎からやってきた担任の(岸谷)先生に、つらいことを打ち明ければいいのに「ガマン」をして逆に慰めてあげて、自分はその夜自殺をしてしまうというなんともコントラストのいい内容でした。(第1話)

その中では今でも変わらずにいつも思っている私たち大人の願いである「思いやり」を、K君は自分のすべてを投げ出して好きな人(岸谷)のために与えるというものです。

所詮はブラウン管の中での出来事だと思ってしまいますが、この世の中のすべての人がこのような「こころ」を抱くことができれば、社会に渦巻く様々な問題もないはずです。受験戦争の中で知らず知らずのうちに「自分は、自分だけは!」・・・同じように「我が子は、我が子だけは!」と、こころを失いがちになっているこの時世に、なんともすがすがしい雨上がりのような気持にさせられたのです。

また、NHKでは最近「いじめ」に関する特集番組を放映していました。その中で深く私に印象づけたものは、「いじめ」に関して専門の先生が学校へ赴き、「いじめ」に関する事実関係を絶対秘密の封書から取り出し、解決の糸口を見つけ出そうとするものでした。そこから判断した「いじめ」の大きな要因として、学校教育制度の骨組みそのものに問題があるのではないかとの回答をしていた事でした。

多すぎる行事に先生方は今にもつぶれそうな「こころ」にムチ打って頑張っておられるようです。1日10時間以上も学校に縛り付けられる子どもたちにも同様、「安らぎ」が感じられなくなっています。その中で「いじめ」のような問題が取り上げられる時、やはり原因は「ひと」にあらず、学校制度そのものの中に深く根ざしているように思えてなりません。

私は日頃、自分だけは自分だけはという気持ちを強く出しすぎる子を拝見すると、なんともつらい気持ちになります。「あひるの子」の中のK君のような子に会うと、とてもうれしくて、毎日会いたくなります。勉強だけでなく「思いやり」をたくさん伝えてあげられればいいなと思っています。久々にすっかりホコリのたまってしまったビデオデッキをフル回転で使ってあげられると思います。

☆5月の予定

- | | |
|--------|---|
| 9日(木) | 珠算・暗算検定試験申し込み締め切り |
| 18日(土) | 第3土曜ですがお休みになります。代わりに検定のため
25日(土)と入れ替えます。 |
| 25日(土) | 珠算4~10級 暗算1~6級検定試験→共和珠算塾 |
| 26日(日) | 珠算3級以上検定試験→中央商業高校 |